

第5回国際化学熱力学会議に出席して

(宮崎大工) 草野 一 仁

会告でご承知のとおり第5回国際化学熱力学会議が、去る8月23日から26日までの4日間、スウェーデンのロンズビーという小さい町で開かれた。もう10年ばかり前、スウェーデンに1年余り滞在したことのある筆者も、多くの友人達と再会できるたのしみもあって、この会議に参加することにした。この本会議に相前後して、熱測定に関する色々な会議も行われていたが、筆者がルントのホテルに着くや否や、その会議の一つに参加しておられた菅先生から電話で、この会議のレポートを書けとのご命令。この報告書を書かねばならぬ羽目に陥った次第である。

さてロンズビーは、スウェーデン第三の都会マルメから、列車で3時間弱、バルチック海側にある人口約2500の小さい町であるが、会議の会場は、更にその駅から3kmばかり離れた、人家もまばらな所に、会議専用で作られた大きなホテルであった。多くの参会者に混って、前日の夕刻そのホテルに着くと、イキナリ藤田、崎山両氏から「いらっしやい」とご挨拶を受け、びっくりしたのであった。

会議の全参加者は約250名、その中アクティブメンバーは約200名で、日本からの参加者は、藤田暉通氏(東大応微研)、森山徐一郎氏(京大工)、菅 宏、崎山 稔、松尾隆祐(阪大理)の三氏、および筆者の計6名であったが、同伴者も含めて全員がこのホテルに宿詰になったのである。

開会前夜の歓迎パーティでは、あちらこちらに旧交を暖めている人々や、初めて逢った人達との話が花を咲かせていたが、翌朝スウェーデン化学会会長のOhlson博士の歓迎の辞、及び委員長のWestrum教授の開会宣言に始まり、いよいよ特別講演と討論などの幕が切って落された。詳細な内容は省略(52頁参照)するが、毎日朝8時45分または9時から約1時間の特別講演があり、コーヒブレイクの後、他の一切の行事を中断して、12時30分までポスターセッションが行なわれた。午後から、夜

9時頃までは、様々な討論集会や作業グループの報告等がいくつも併行して行なわれた。どの会合も、非常に密度の高いものであったが、中でもポスターセッションは、わが国からの参加者にとっては初経験であり、またこの会議でも初めて採用されたものであるが、その評判は非常に良いようであった。

会場にあてられたホテルは、全員を併詰にして会議や研修を行うために作られたものと聞いたが、大小合わせて30余りの研修室を持つ二つのビルと別棟とからなっていて、ポスターセッションは、これら二つのビルを結び200m近い廊下を利用して行なわれた。つまり、廊下の片側の壁に2.0m×1.2m大の発泡スチレンの板がズラリと取り付けられてあり、発表者はその中の指定の場所に各自のポスターを朝8時から貼り出す。このポスターは、午後5時まで貼ったままにしておくのであるが、発表者は10時半から12時半までの2時間、自分のポスターの所において、質疑に応ずる義務がある。スライドによる講演と違って、図や表が消えてしまうこともないので、セッションの間は勿論、休憩時間中なども、ゆっくりポスターを眺められるし、じっくり討論もできるのであるが、それでもなお時間不足の感をいだいたのは筆者のみではなさそうである。

ヨーロッパの人達は、ポスターセッションは馴れていると見えて、ポスターも色刷りで美しい。また時間が足らぬ時などは、休憩時や、ホテルの室迄おしかけて討論することもできるし、この方法は情報交換や議論するには、極めて有効な密度の高い方法であった。

ディスカッションセッションや作業グループの会議もなかなかの盛況で、時間不足のため、度々時間や場所の変更があり、又追加のセッション等もあったが、最終日8月26日午後4時からWestrum教授の会場係の人々に対する謝辞、次回は2年後にオーストラリアで行なうことの発表があり、4日間にわたる会議の幕を閉じた。